

TIMBERIZE EXHIBITION

ティンバライズ建築展 都市木造のフロンティア in なごや



木造ラーメン30m級提案模型

丸美産業本社ビル

2010.10.09 [SAT] ▶ 2010.10.15 [FRI]

開館時間 / 10:00~17:00 (土・日開館 初日は13時から開館) 入場料 / 無料 会場 / 丸美産業本社ビル 第1会場 1階ギャラリー・談話室 第2会場 2階セミナールーム

主催 / team Timberize・東京大学生産技術研究所 腰原研究室 木造都市研究会「木愛の会」 特別協賛 / 丸美産業株式会社

後援 / 愛知県、名古屋市、日本建築家協会東海支部愛知地域会、愛知建築士会、愛知県建築士事務所協会

トークセッション「都市木造の可能性—公共建築の未来はどうなる？」 日時 / 2010年10月9日(土) 18:00~19:30 会場 / 5階大会議室

オープニングセミナー 15:30~17:00 (15:00より受付) 会場でティンバライズメンバーによるレクチャーと質疑応答



『ティンバライズ』とは、木を新しい材料としてとらえ、新しいものをつくり出すという造語です。2010年5月に東京表参道で提案した都市の仮想木造プロジェクトによる巡回展を名古屋で開催する運びとなりました。

今までにない都市における木造建築のドローイングやスケッチ、模型

や映像を通して、都市の新しい木造建築とはどのようなものか、その可能性と実現性に迫ります。また、木・木造に関する最新の情報や技術の紹介によって木の世界を伝え、実物大の試作を配置構成・デザインし、会場をティンバライズすることで、みなさんに実際の肌触り、色や匂いを体感していただきます。

2000年の建築基準法改正により、木造の耐火建築物が法的に建設可能になりました。現在、木構造の解析技術や耐火部材の進歩、エンジニアード・ウッドと言われる素材の革新により、都市部における大規模木造建築の建設が現実味を帯びてきています。一方、低炭素社会実現のための方策として、炭素を固定する木造建築は重要な役割を果たすことができます。そういった状況を背景に、team Timberizeは伝統や慣習に捕われることなく、木造の新しい可能性を模索し、社会に広く提案したいと考えています。

●なごや巡回展開催にあたって

木愛の会は、「循環型社会の構築のため木材を使い、新しい木の建築と「木造都市」を提案しましょう」と趣意書に謳っています。このたび、team Timberizeとともに名古屋で巡回展を開催することとなりました。会場は、名古屋初、木造ハイブリッド構造5階建てビル（設計：当会会長高松伸）です。地元の大学の研究室や、高松伸会長の構想作品出展のご協力を得て名古屋展の独自提案を展示します。この機会に、新しい木造の可能性を多くの方々に知っていただき、都市に木の建築が増えてゆくことを願っています。

木愛の会代表世話人 田中英彦



写真提供 高松伸建築設計事務所



名古屋大学東山キャンパス2040年模型 / 写真提供 名古屋大学

「都市木造の可能性—公共建築の未来はどうか?」

トークセッション

河村たかし
[名古屋市長]

高松伸
[京都大学大学院教授・建築家
木愛の会会長]

腰原幹雄
[東京大学生産技術研究所准教授
team Timberize]

都市木造の可能性をどうみるか。特に公共建築のあり方について語り合います。

日時 / 2010年10月9日(土) 18:00~19:30

会場 / 丸美産業5階大会議室

入場無料 / 定員120名 先着順

オープニングセミナー

10月9日(土) 15:30~17:00

展示会場でティンバライズメンバーによるレクチャーと質疑応答を行います。

協賛企業募集中

協賛いただいた企業は、展示会会期中の冊子にあらためてご紹介させていただきます。

[協賛お問合わせ先]
木造都市研究会「木愛の会」 協賛担当
石田 / (株)都市研究所スぺーシア
Tel / 052-242-3262 Fax / 052-242-3261
Mail / kiainokai@gmail.com
URL / http://www.kiainokai.org
ティンバライズ建築展 事務局
東京大学生産技術研究所 腰原研究室
Tel / 03-5452-6842 Fax / 03-5452-6841
Mail / info@timberize.com
URL / http://www.timberize.com

丸美産業へは
地下鉄桜通線「瑞穂区役所」下車
②番出口 南(左)へ徒歩30m



木造ハイブリッド構造5階建てオフィスビル
設計:高松伸

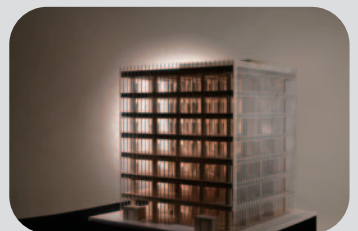
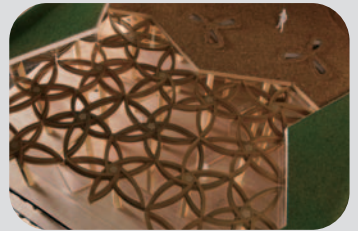
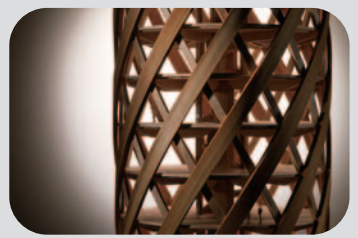


Photo / Satoshi Asakawa